津山城百聞録

52 津山城備中櫓2 ～棟込瓦の語るもの～

前回、備中櫓の名前の由来を「森家先代実録」をもとにして検討しました。今回はこの検討結果を裏付ける遺物についての考察を行います。

津山城本丸は平成９年度から継続して調査を実施しており、本丸内の備中櫓をはじめとする主要な遺構については、ほぼその状況を把握できています。

この調査の過程で、備中櫓の周辺でしか出土していない特異な遺物があることが分かってきました。それが写真１の瓦です。一見、屋根の軒先を飾る「軒丸瓦」に見えるのですが、丸い部分の直径が通常の軒丸瓦の半分程度しかなく、これは屋根の「棟」の部分を飾る「棟込瓦」の一種で「菊丸瓦」と呼ばれる種類の瓦です。

▲写真１　津山城備中櫓出土棟込瓦

みなさんは写真１の瓦の文様が、何に見えるでしょうか？一見すると、花のように見えますが、よく見ていると足のようなものや触角のようなものがあり、どうやらこれは「蝶」ではないかということが推測できます。

通常、城郭では瓦に文様を入れる場合、藩主の家紋を入れるのが通例です。津山城の場合、森家の家紋は「鶴丸」ですから鶴の文様が使われるのが普通です。しかし、出土した瓦は「蝶」の文様でした。それでは家紋に「蝶」を使用するのは誰でしょうか？

この瓦に描かれた「蝶」は、池田家の「揚羽蝶」であると思われます。池田備中守長幸がいた鳥取城でも「揚羽蝶」文様の瓦が出土していますし、同様に池田家であった岡山城でも見事な「揚羽蝶」文様の瓦を使用していました（下）。

▲岡山城で出土した「揚羽蝶」文様の瓦の拓

備中櫓の周辺でしか出土しない特異な瓦は、「森家先代実録」で備中櫓とのかかわりを記載されている池田家に深く関係する瓦であることが分かります。初代藩主森忠政は、娘婿にちなんだ名前の櫓を建てるにあたって、棟に池田家由来の「揚羽蝶」文様の瓦を使用したのでしょう。

蛇足ですが、備中櫓周辺から出土した「蝶」の文様は、岡山城出土の「揚羽蝶」文様と比べて随分省略され、簡単な表現となっています。これは単なる推測ですが、森家のお抱え瓦師が、ふだん制作したことのない「揚羽蝶」の文様を、記憶を頼りに制作したため、このような簡略化された表現となったのではないかと思われます。

蛇足をもう１つ。現在、復元整備中の備中櫓にも、この「揚羽蝶紋棟込瓦」を使用しています。しかし、残念ながら地上から遠すぎてそれが「揚羽蝶」であるかどうかの確認は困難なようです。

編集後記

■手作りの畑にナスの苗を２本植えました。早速それぞれの苗から１本ずつ収穫できたのでシメシメ。しかし、その後伸びるのは雑草ばかり。初めての野菜づくりは失敗に終わるのでしょうか。がんばって、ちゃんと手入れをしないと…。（郁）

■今年は気候のせいか、花の咲く時期が少しずつ早くなっていますね。わが家の庭にも早くも夏の花が咲き始めてびっくりしています。季節に追い越されているみたいで焦るわ。そうでもなくても原稿に追われているのに。（e）

■山奥にある自宅にホタルブクロ（キキョウ科）が咲くころ、津山では例年になくホタルがよく見られたそうです。一度は姿を消した夏の使者。自然の回復力には本当に驚かされます。今度こそ、ホタルに逃げられないまちにしたいですね。（X）

今月の納税

固定資産税２期
介護保険料２期
納期限：８月２日（月）

ひとの動き

（６月１日現在）

人　口	90,119 人（前月比＋46）
男	42,955 人（同＋20）
女	47,164 人（同＋26）
世帯数	35,083世帯（同＋55）

５月中の異動数

出生　81人、死亡　74人
転入　254人、転出　215人

7月 2004

編集・発行　津山市企画部行政広報室
〒708-8501岡山県津山市山北520
TEL0868-23-2111（代）32-2029（直通）FAX0868-25-0263
Eメール　kouhou@city.tsuyama.okayama.jp
津山市ホームページ　http://www.city.tsuyama.okayama.jp/
（PDFファイルで全紙面を掲載しています）
発行日　毎月10日
印刷　株式会社　廣陽本社

PRINTED WITH SOY INK　R100
広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください。